

平成30年度 地域連携活動報告書

協定締結日	2010/3/31	連携先名称	川崎市環境局（現 建設緑政局）
活動状況	継続中	連携先窓口	
活動資金	研究室予算	担当教員(所属)	
活動体制（単位）	学部	関連教員(所属)	鈴木貢次郎（造園科学科）
活動内容	<p>本件は、地域環境科学部と川崎市環境局（現 建設緑政局）間で2010年（平成22年）3月31日に交わした「かわさき多摩丘陵グリーン・コンソーシアム」の構築を目指した東京農業大学地域環境科学部との研究等に関する確認書」に基づく活動である。活動場所は、神奈川県川崎市麻生区にある約11haの早野梅ヶ谷特別緑地保全地区である。特別保全地区であるため、建築物などは一切建てることができない。石油エネルギーなどの利用増によって、戦後長く放棄されていた。そのため、かつて薪炭林として使われていた二次林の林床にはアズマネザサが繁茂し、他の林床植物の生育はほとんどみられなかった。また長く利用されなくなった竹林は荒廃し、その面積は年々拡大するばかりであった。その結果、コナラ、クヌギを主とする二次林は減少し、植物の多様性の問題の他、景観上、治安上も問題があった。これらの問題に対処すべく、2011年度から本学ランドスケープエコロジー研究室（現 造園植物・樹芸研究室）での卒業論文や博士前期課程論文、博士後期課程論文の調査研究テーマとして活用してきた。また研究だけでなく、造園科学科開講科目の「造園体験演習」（1年前期）や「緑地生態学」（2年後期）、専門特化演習（植栽基盤、4年後期）、日本学術振興会 ひらめきときめきサイエンスの野外学習の場として活用してきた。当フィールドがある川崎市麻生区早野地区では、地域の活性化を目的とした「地域懇談会」も立ち上げられ、参画してきた。地元の小学生や地域住民に対して、自然（里山）とのふれあいを啓発するために、タケノコ採りや間伐、下草刈りなどの体験的教育を、川崎市川崎市経済労働局都市農業振興センター農地課、川崎市建設緑政局緑政部みどりの協働推進課協働推進などと協力し行ってきた。</p>		
活動成果	<p>当活動場所は、本学世田谷キャンパスから公共交通で約1時間の距離に位置し、確実な実績が現れた。「かわさき多摩丘陵グリーン・コンソーシアム」の構築を目指した東京農業大学地域環境科学部との研究等に関する確認書」に基づく活動場所の神奈川県川崎市麻生区にある早野梅ヶ谷特別緑地保全地区に生育する植物や生物を対象とした調査研究により、多くの論文を発表してきた。特に平成30年度は、学部3年から博士前期課程、博士後期課程に在学した学生が当フィールドに生育する植物に関する研究をまとめ、博士論文を提出した。主要な発表論文は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中島宏昭、芳賀雅之、古道潤、鈴木貢次郎、金子忠一（2015）大学と小学校、及び地方自治体の連携による里山の活用、ランドスケープ研究78巻 増刊 技術報告集2015(8), 134-137 ・中島宏昭、鈴木貢次郎、亀山慶晃(2016) アズマネザサの刈り取りが放棄二次林の林床植生に与える影響、保全生態学研究21(1), 51-60, ・Hiroaki Nakajima, Hiromi Kojima, Kotaro Tachikawa, Kojiro Suzuki, Ian D. Rotherham (2018) Ecological and growth characteristics of trees after resumption of management in abandoned substitution forest in Japan, Landscape Ecological Engineering 18(1), 175-185, ・中島宏昭、寺岡睦実、鈴木貢次郎（2018）二次林下におけるアズマネザサの刈り取りがヤブランとジャノヒゲの生育・着花に及ぼす影響、ランドスケープ研究 81（5）、479-484 <p>また当地での東京農業大学の活動によって、周辺の里山での活動も盛んになってきた。これまで荒廃していた周辺の里山が、本学の活動に刺激され景観上も向上しているとの声も聞いている。特に小学生への環境教育によって、自然について学習することが、総合科目の内容にも影響し、それがさらに川崎市での教育研究会などにも発表されているとのことである。</p>		
課題・改善点	<p>研究、教育のフィールドとして活用するだけでなく地域貢献も重要な目的であるため、草刈りや枯損木の伐採などの必要性が生じる。その際の危機管理対策と、現地までの交通費の確保などがあげられる。</p>		

